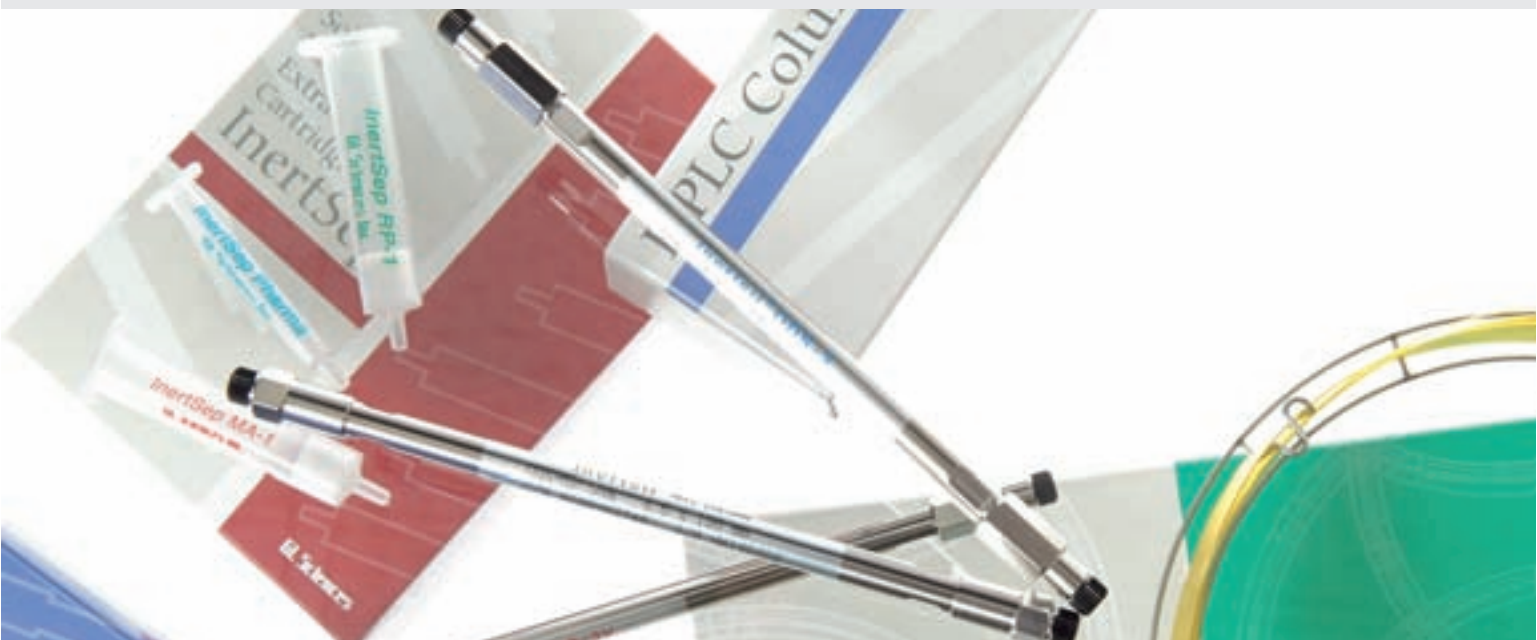


GL Sciences

株主の皆様へ 第42期中間期のご報告
平成20年4月1日～平成20年9月30日



To Our Shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第42期中間期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当社は昭和43年の創立の際に、会社はどのような思想を持ち、実現していくかという、経営に対する姿勢、理念を「創立の根本精神及び経営理念」に掲げました。その中で創立の目的は、「同一の思想を持ち、信頼し合うことのできる人間が集まって、何かの仕事を通して、経済的無から一つの理想体を造りあげる事への挑戦」であると謳っております。

この「創立の根本精神及び経営理念」に基づき、当社は「社会に対し社会性を充分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめること」を基本理念として、これまで活動を続けてまいりました。

第42期中間期における業績につきましては、企業の設備投資抑制、金融市場の混乱や原油・原材料価格の高騰などにより単体・連結ともに期初計画を下回る不本意な実績となりましたが、期末配当金につきましては昨年同様の1株当たり45円を予定しております。

今後につきましても引き続き厳しい経営環境が予想されますが、お客様のニーズに合った製品の開発と効率的な営業活動を一層強化し、業績の向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



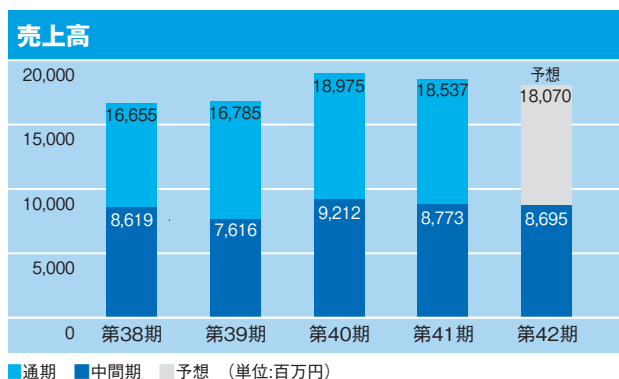
取締役社長

東 洋 司

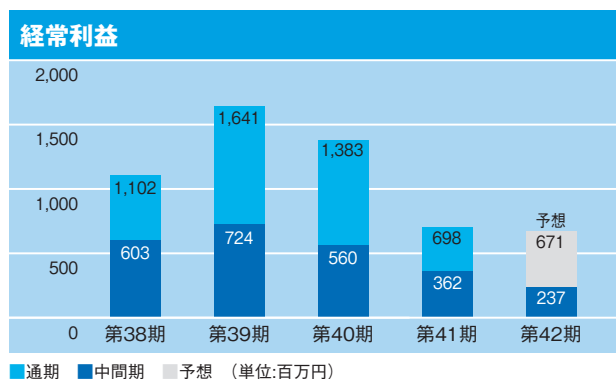
平成20年12月

Financial Highlights

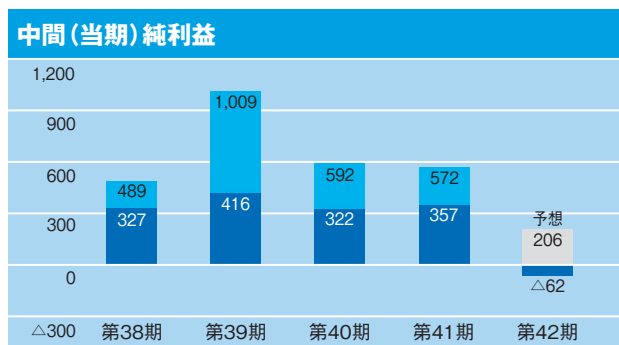
業績ハイライト(連結)



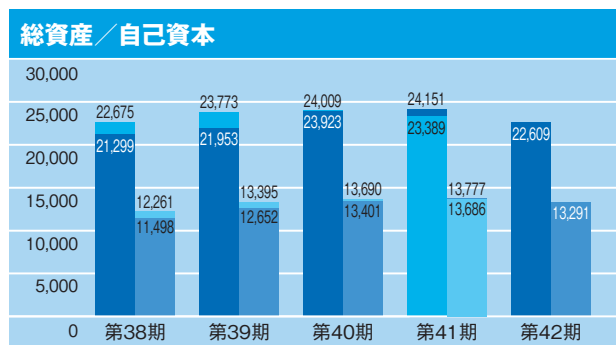
■通期 ■中間期 ■予想 (単位:百万円)



■通期 ■中間期 ■予想 (単位:百万円)



■通期 ■中間期 ■予想 (単位:百万円)



総資産 ■通期 ■中間期 / 自己資本 ■通期 ■中間期 (単位:百万円)

	第38期中間 平成16年9月	第38期期末 平成17年3月	第39期中間 平成17年9月	第39期期末 平成18年3月	第40期中間 平成18年9月	第40期期末 平成19年3月	第41期中間 平成19年9月	第41期期末 平成20年3月	第42期中間 平成20年9月
売上高(百万円)	8,619	16,655	7,616	16,785	9,212	18,975	8,773	18,537	8,695
経常利益(百万円)	603	1,102	724	1,641	560	1,383	362	698	237
中間(当期)純利益(百万円)	327	489	416	1,009	322	592	357	572	△62
1株当たり中間(当期)純利益(円・銭)	63.89	90.15	74.52	177.06	57.64	105.87	64.00	102.61	△11.39
総資産(百万円)	21,299	22,675	21,953	23,773	23,923	24,009	24,151	23,389	22,609
自己資本(百万円)	11,498	12,261	12,652	13,395	13,401	13,690	13,777	13,686	13,291

Operations Review

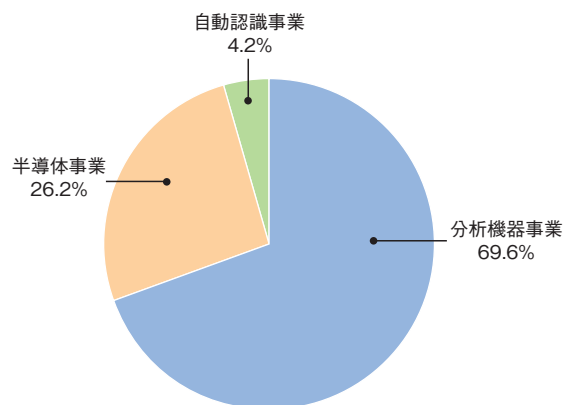
連結業績の概要

第42期中間期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）におけるわが国経済は、原油・原材料価格の高騰や米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機の影響から、企業収益は落ち込み、設備投資も低迷する等、景況感が一段と悪化しました。

このような経営環境下におきまして、当社グループの当中間期の業績は主力の分析機器事業の売上は微増となりましたが、半導体事業、自動認識事業の売上が落ち込んだ結果、グループ全体の売上高は8,695百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

損益につきましては、分析機器事業が予定ほど伸長せず、利益率の高い自動認識事業の売上減少に加え、原材料価格の高騰や人件費の増加等により、営業利益は231百万円（前年同期比36.3%減）、経常利益は237百万円（前年同期比34.4%減）、中間純損失は第1四半期に半導体事業にて特別損失として計上した、たな卸資産評価損273百万円を吸収することができず、62百万円（前年同期は中間純利益357百万円）となりました。

セグメント別売上構成比



Corporate Social Responsibility

社会貢献への取り組み

当社は、社会貢献の一環として2006年にWWFの日本組織であるWWFジャパン（財団法人世界自然保護基金ジャパン）の法人会員となり、また2008年に認定NPO法人国連WFP協会の評議員となりました。

WWFは、100を超える国々で活動する世界最大の自然保護NGO（非政府組織）です。絶滅の危機に瀕した生物の保護、生物の多様性を守るために選定された地域の保全、地球規模の環境問題である地球温暖化を食い止めるための活動などを行っております。

国連WFP協会は、世界の飢餓撲滅を使命に途上国で食糧支援を行うWFP 国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人で、企業や各種団体との連携を深めたり、募金を集めたりするなど民間協力の窓口となっています。WFPは、国連唯一の食糧支援機関であり、かつ世界最大の人道支援機関です。

当社は、これらの団体の理念に賛同し活動をサポートしております。また、最近では岩手・宮城内陸地震の被災者へ救援募金を行うなど社会貢献が認められ2007年に日本赤十字社より銀色有功章が授与されました。



WWFジャパン
法人会員証



日本赤十字社
銀色有功章（2007.10.16）



国連WFP協会
評議員証

トピックス

ジーエルのお届けするソリューション

試料前処理 インストルメンツ&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠の技術が分析試料の前処理、濃縮導入技術になります。高感度化分析装置に分析試料を導入する際に、ターゲット成分が濃縮できるものであれば分析可能な低濃度試料の領域は無限大に広がっていきます。

当社はカスタマーサポートで構築した、この豊富な前処理メソッドを分析オペレーター及び機器分析装置メーカーに提供しており、極めて高い評価をいただいております。

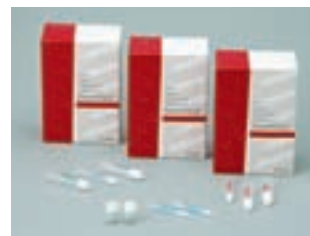
水道水質分析公定法改定に盛り込まれたVOC（揮発性有機化合物）および農薬分析用に販売されている「アクアPT5000JPlus」、「アクアトレース」は、引き続き重要な製品群として位置づけられています。また9月に開催されました分析展におきましては、「アクアトレースASPE799」として新製品発表を行いました。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群の前処理固相カートリッジ「イナートセップ」[GL-Pak]は、着実に伸長しております。

特に弊社ブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ、環境水質市場、食品ポジティブ市場をターゲットに、一段の売上増を進めております。



アクアトレース ASPE799



前処理固相カートリッジ InertSep®

ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ（GC）は、試料を気化して分離・定量する機器分析手法でガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適性があります。その特徴により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に大いに利用され、特に当社製品も日本の環境行政に適応・貢献し、年々基準値が見直されつつある公定分析法に威力を発揮しております。

当社は平成17年3月期（38期）に「GC-4000シリーズ」を発表し、継いで平成19年3月期（40期）においては、その姉妹機となる新型「GC-3200シリーズ」をリリースいたしました。

ラインナップの充実と合わせて要求の大きいGC分取装置、香気官能機器等の周辺装置も構築された当社技術を豊富に盛り込まれお客様のニーズをサポートしております。また9月に開催されました分析展におきましては、香気成分をはじめ食品、環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析をターゲットとして、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap（モノトラップ）」を新製品発表いたしました。これにより安価で手軽に濃縮分析が可能になりました。

またGCおよびGCMS分析の機能充実のための重要な要素、アイテムは、分離メソッドの確立とケミカルな分離剤、カラムの選択です。

当社は創立以来の技術構築と近年の斬新な製品化で、この分野に多くの顧客アドバンテージ製品を供給し続け、当期も初の国産化に成功した弊社ブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」(GC用分離カラム)を積極的にプロモートいたしております。



におい嗅ぎシステム OP275



GCキャピラリーカラム InertCap®

液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する機器分析手法でGC分析ではカバーしきれない沸点の高い有機化合物の分析等に適性があります。化合物の多くの成分がLCに適性があり、食品、製薬、バイオなど広範な利用が進んでおります。研究室等に設備される、分析機器の導入伸び率もLC、LC/MS、LC/MS/MSは極めて大きく、需要層もバイオ、ライフサイエンス市場を筆頭に近年の高性能自動分析装置の要求が強く、当社においても、その要求に応えられる装置群の生産量の増加が、顕著になってきております。

LC分析はその試料移送のキャリア流量によりマイクロからマクロまで装置群が製品化され、もっとも多くの需要のある流量領域にマッチした製品としてLC「GL-7400シリーズ」を精力的にお客様に提案を進めております。また、9月に開催されました分析展におきましては、高速・高分離・高感度を実現させた一体型HPLCシステム「LC800」を新製品発表いたしました。

またLC分析に不可欠となる分離剤・分離カラムとして長年に亘り多くの好評を博している弊社ブランド「イナートファミリー」の一つである「イナートシル」は、引き続き販売量が国内・外に増加し続けております。近年お客様の要求が多様化する中、同シリーズにも多くのラインナップが追加され、一層その使いやすさが際だち、盤石のトップシェアを維持しております。9月に開催されました分析展におきましては、HPLCカラムの3大吸着要因とされる塩基性化合物・酸性化合物・金属配位性化合物に対する“不活性さ（＝ピーク形状）”にこだわり、“あらゆる化合物への汎用性”と“使いやすさ”を追求した新世代ODSカラム「Inertsil ODS-4」を新製品発表いたしました。



HPLCシステム LC800



HPLC用カラム Inertsil®

自動認識事業 USB接続小型卓上型リーダライタ

写真のSimLock-G（シムロッカーG）は、従来の面倒なID、パスワード入力が必要とせず、非接触ICカードを使用して簡単な操作で確実にパソコンへのセキュア認証を実現します。パソコンに登録された非接触ICカード所有者以外の人物による不正利用を防止します。1台のパソコンを共有する場合でも、自分のデータをパソコン共有者に不正に利用されたり画面を盗み見られたりしません。リーダライタ1台に対して非接触ICカードは無制限に登録可能で、ユーザが既に持っている非接触ICカードをログオン用カードとして利用することが出来ます。



SimLock-G

Consolidated Financial Statements

中間連結財務諸表

●中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前中間期 (第41期) (19.9.30現在)	当中間期 (第42期) (20.9.30現在)	前期 (第41期) (20.3.31現在)
資産の部			
流動資産	13,844	12,751	13,685
現金及び預金	3,174	2,868	2,805
受取手形及び売掛金	5,619	5,767	6,336
有価証券	—	100	100
たな卸資産	4,582	3,698	4,104
繰延税金資産	188	205	245
その他	292	125	105
貸倒引当金	△ 13	△ 12	△ 10
固定資産	10,306	9,858	9,703
有形固定資産	8,509	8,376	8,329
建物及び構築物	2,983	3,037	3,132
機械装置及び運搬具	1,753	1,537	1,662
土地	3,142	3,300	3,155
建設仮勘定	204	113	13
その他	424	387	365
無形固定資産	126	102	112
投資その他の資産	1,671	1,378	1,260
投資有価証券	1,149	688	759
その他	622	699	608
貸倒引当金	△ 100	△ 9	△ 107
資産合計	24,151	22,609	23,389

	前中間期 (第41期) (19.9.30現在)	当中間期 (第42期) (20.9.30現在)	前期 (第41期) (20.3.31現在)
負債の部			
流動負債	5,684	5,176	5,437
支払手形及び買掛金	2,698	2,175	2,412
短期借入金	2,047	2,194	2,042
未払法人税等	80	92	168
未払消費税等	18	44	33
賞与引当金	345	364	368
その他	494	304	412
固定負債	2,615	2,278	2,224
長期借入金	2,055	1,779	1,665
再評価に係る繰延税金負債	128	128	128
退職給付引当金	22	39	27
役員退職金引当金	233	227	237
負債のれん	—	5	—
その他	175	98	164
負債合計	8,300	7,455	7,661
純資産の部			
株主資本	13,812	13,566	13,945
資本金	1,207	1,207	1,207
資本剰余金	1,819	1,819	1,819
利益剰余金	10,787	10,689	11,001
自己株式	△ 2	△ 150	△ 83
評価・換算差額等	△ 34	△ 275	△ 258
その他有価証券評価差額金	138	△ 17	16
繰延ヘッジ損益	46	△ 2	△ 19
土地再評価差額金	△ 346	△ 346	△ 346
為替換算調整勘定	126	91	90
少数株主持分	2,072	1,863	2,040
純資産合計	15,850	15,154	15,727
負債純資産合計	24,151	22,609	23,389

●中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間期 (第41期) (19.4.1~19.9.30)	当中間期 (第42期) (20.4.1~20.9.30)	前期 (第41期) (19.4.1~20.3.31)
売上高	8,773	8,695	18,537
売上原価	6,073	6,073	12,945
売上総利益	2,700	2,622	5,592
販売費及び一般管理費	2,337	2,390	4,629
営業利益	362	231	962
営業外収益	112	79	123
営業外費用	113	73	387
経常利益	362	237	698
特別利益	227	—	245
特別損失	41	292	66
税金等調整前中間(当期)純利益	548	△ 55	877
法人税、住民税及び事業税	68	84	216
法人税等調整額	106	31	80
少数株主利益又は少数株主損失(△)	16	△ 108	8
中間(当期)純利益	357	△ 62	572

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間期 (第41期) (19.4.1~19.9.30)	当中間期 (第42期) (20.4.1~20.9.30)	前期 (第41期) (19.4.1~20.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	771	807	1,178
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 866	△ 467	△ 1,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	354	△ 70	△ 123
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3	13	△ 6
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	256	283	△ 141
現金及び現金同等物の期首残高	1,304	1,163	1,304
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,561	1,447	1,163

Company Profile

会社の概況 (平成20年9月30日現在)

●商号	ジーエルサイエンス株式会社
●証券コード	7705 (東証第二部)
●本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
●設立	昭和43年2月1日
●資本金	1,207,795千円
●役員	取締役社長 森 憲司 常務取締役 外丸 勝彦 取締役 高橋 良彰 取締役 大場 春祥 取締役 根生 辰男 常勤監査役 永井 博 監査役 田村 紀彦 監査役 加藤 靖正

●従業員数 416名

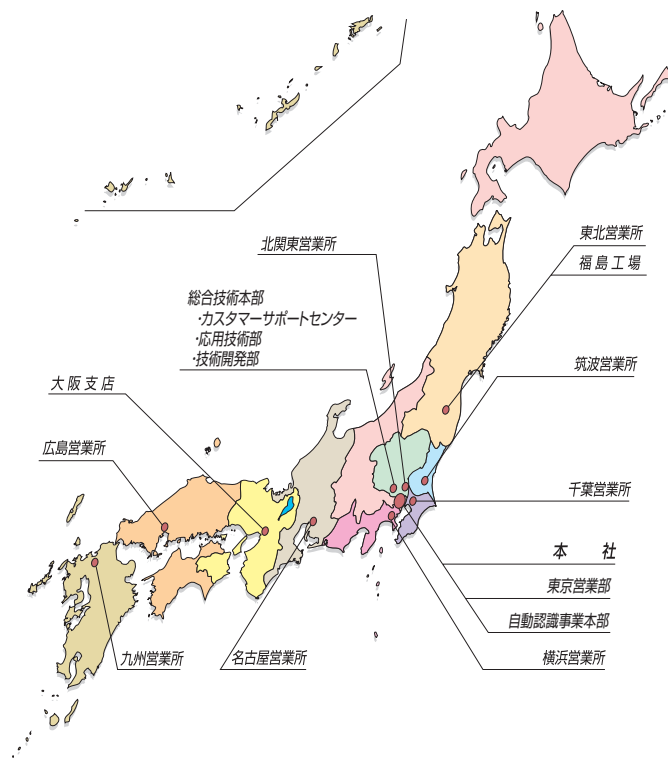
●主な事業

- ・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器
- ・分光光度計用セル、石英加工品
- ・半導体関連分析装置
- ・バイオ機器・部品
- ・非接触ICカード、リーダライタ
- ・その他すべての関連製品

●関係会社

テクノクォーツ株式会社
株式会社グローブ
杭州泰谷諾石英有限公司 (中国)
ATAS GL International B.V. (オランダ)
GL Sciences, Inc. (米国)
島津技迹(上海)商貿有限公司

●事業所



●株式の状況

発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数	5,595,000株
株主数	1,365名

●発行済株式（自己株式を除く）の総数の10分の1以上の数の株式を保有する株主

株主名	持株数	持株比率
ジェールサイエンス従業員持株会	627,686株	11.21%

●所有者別株主分布

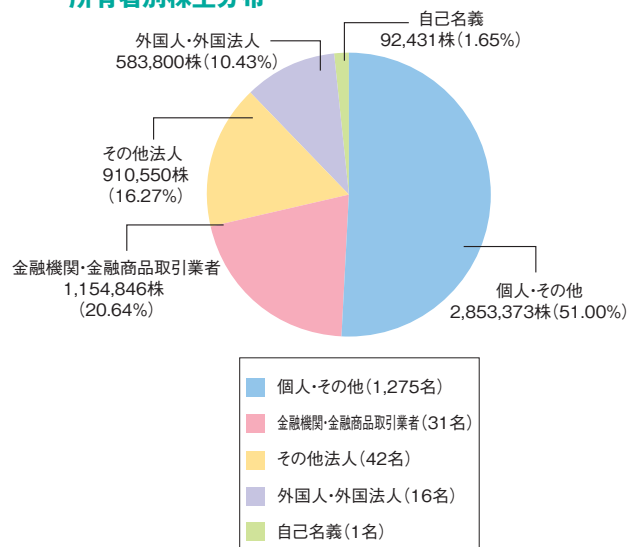
順位	株主名	持株数	持株比率
1	個人・その他(1,275名)	2,853,373株	51.00%
2	金融機関・金融商品取引業者(31名)	1,154,846株	20.64%
3	その他法人(42名)	910,550株	16.27%
4	外国人・外国法人(16名)	583,800株	10.43%
5	自己名義(1名)	92,431株	1.65%
	合計	5,595,000株	100.00% [※]

※は、百分率の補正を表わしております。

●当社のホームページ <http://www.gls.co.jp>



所有者別株主分布



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
同総会議決権行使株主確定日 毎年3月31日
期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日(中間配当は行っておりません。)
株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店(下記ご注意ご参照)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等)のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

TEL 0120-244-479 (通話料無料)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所 東京証券取引所

公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化実施後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。



ジエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1 TEL03-5323-6633 URL <http://www.gls.co.jp>